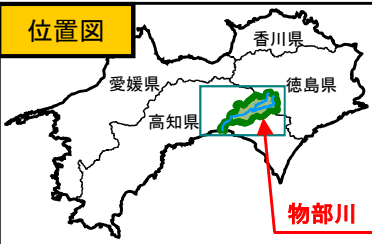


物部川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～南国土佐の「ものづくり・物流拠点」と暮らしを守る流域治水対策～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、物部川流域においても、下流域の南西方向に広がる扇状地への拡散型の氾濫が発生する水害特性からも、事前防災対策を進める必要があることから、河川整備や、物部川の氾濫対策としての住宅、病院、福祉施設等の安全確保等の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の昭和45年8月洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



ダムによる治水対策・濁水対策



多様な主体による森林の整備・保全



住宅、病院、福祉施設等の安全確保
(家屋倒壊等氾濫想定区域内に位置する
要配慮者利用施設の一例)

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

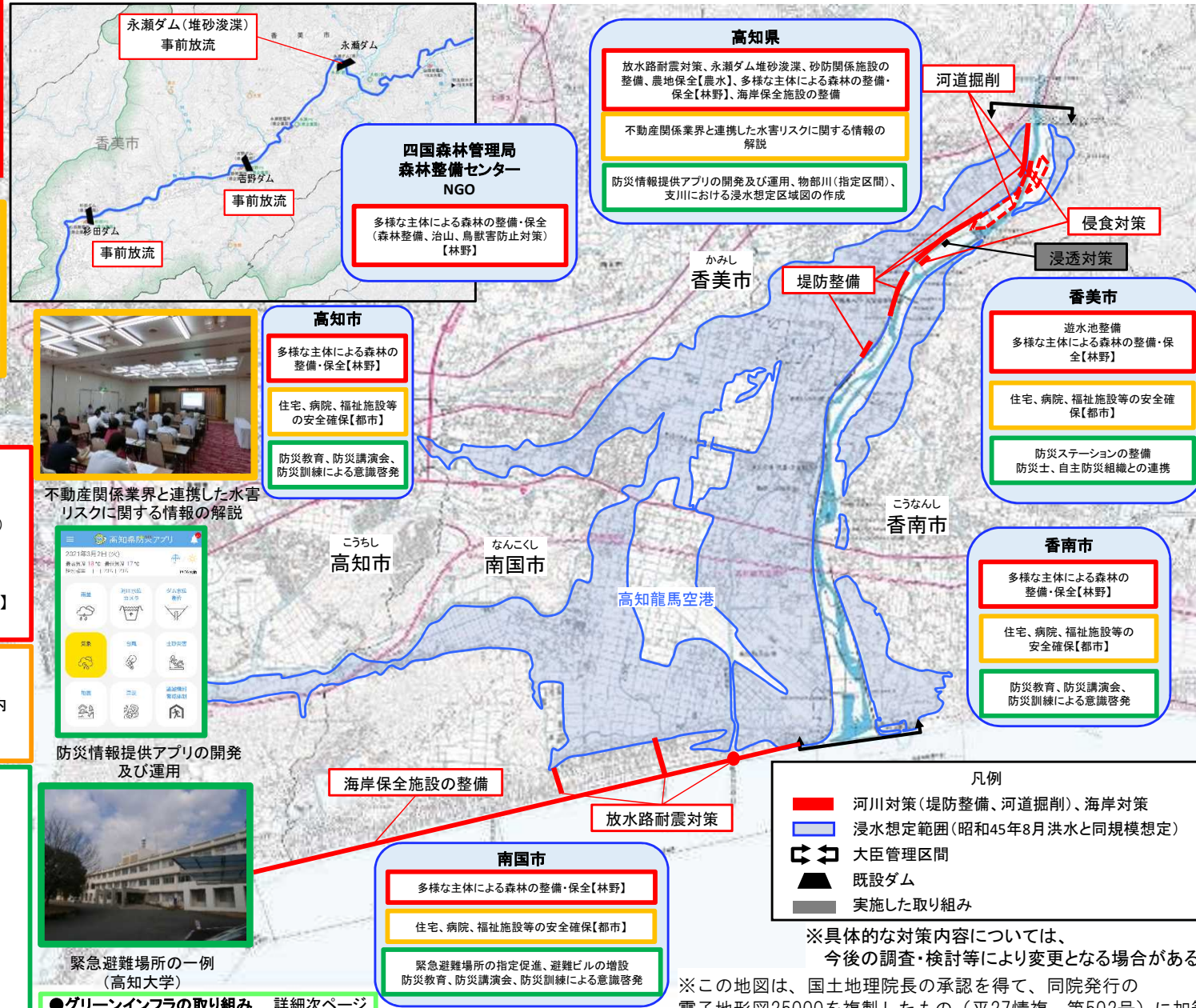
- ・堤防整備、河道掘削、侵食対策、浸透対策
- ・放水路耐震対策、永瀬ダム堆砂浚渫
- ・利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、高知県）
- ・遊水地整備
- ・砂防関係施設の整備
- ・農地保全【農水】
- ・多様な主体による森林の整備・保全（森林整備、治山、鳥獣害防止対策）【林野】
- ・海岸保全施設の整備 等

■被害対象を減少させるための対策

- ・住宅、病院、福祉施設等の安全確保【都市】
- (病院や福祉施設における避難行動要支援者の居室の浸水深以上への移設、屋内安全確保(垂直避難)を可能にする建物の複数階化 等)
- ・不動産関係業界と連携した水害リスクに関する情報の解説 等

■被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

- ・早期避難に向けた情報提供
- ・緊急避難場所の指定促進、家屋倒壊等氾濫想定区域内で氾濫流に耐えられる避難ビルの増設
- ・防災ステーションの整備
- ・防災情報提供アプリの開発及び運用
- ・物部川(指定区間)、支川における浸水想定区域図の作成
- ・防災教育、防災講演会、防災訓練による意識啓発
- ・防災士、自主防災組織との連携
- ・水害リスク空白域の解消
- ・ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 等



物部川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～南国土佐の「ものづくり・物流拠点」と暮らしを守る流域治水対策～

○物部川では、物部川右岸で破堤した場合、流域市町村の全域にわたって氾濫水が到達する流域の特徴を踏まえ、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】昭和45年8月と同規模の洪水を安全に流下させるために、堤防整備（堤防拡幅）、河道掘削を実施するとともに、早期避難に向けた情報提供を実施。

【中期】堤防を強化し、破堤しにくくするよう、堤防整備（侵食対策、浸透対策）を実施するとともに、緊急避難場所の指定促進、家屋倒壊等氾濫想定区域内で氾濫流に耐えられる避難ビルの増設を実施。

【中長期】堤防整備（侵食対策、浸透対策）に加え、安全なまちづくり（病院や福祉施設における避難行動要支援者の居室の浸水深以上への移設、屋内安全確保（垂直避難）を可能にする建物の複数階化 等）を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

■事業規模

河川対策（約70億円）

海岸対策（約50億円）

【ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備、河道掘削、海岸保全施設の整備	高知河川国道事務所	堤防拡幅、河道掘削 侵食対策、浸透対策、海岸保全施設の整備		
	放水路耐震対策、永瀬ダム堆砂浚渫	高知県	放水路耐震対策、永瀬ダム堆砂浚渫		
	利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築	高知河川国道事務所、高知県	利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築		
	砂防関係施設の整備、海岸保全施設の整備	高知県	砂防関係施設の整備、海岸保全施設の整備		
	多様な主体による森林の整備・保全【林野】	四国森林管理局、森林整備センター、高知県、NGO 等	森林整備、治山、鳥獣害防止対策		
被害対象を減少させるための対策	住宅、病院、福祉施設等の安全確保【都市】	高知市、南国市、香南市、香美市 等	病院や福祉施設における避難行動要支援者の居室の浸水深以上への移設 屋内安全確保（垂直避難）を可能にする建物の複数階化		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	早期避難に向けた情報提供、防災情報提供アプリの開発及び運用	高知河川国道事務所、高知地方気象台、高知市、南国市、香南市、香美市 等	早期避難に向けた情報提供 防災情報提供アプリの開発及び運用		
	緊急避難場所の指定促進、家屋倒壊等氾濫想定区域内で氾濫流に耐えられる避難ビルの増設		緊急避難場所の指定促進 家屋倒壊等氾濫想定区域内で氾濫流に耐えられる避難ビルの増設		
	防災教育、防災講演会、防災訓練等による意識啓発		防災教育、防災講演会、防災訓練		
グリーンインフラの取組	多自然川づくり	高知河川国道事務所	多自然川づくり		
	小中学校における環境学習	高知河川国道事務所	小中学校における河川環境学習		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

物部川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

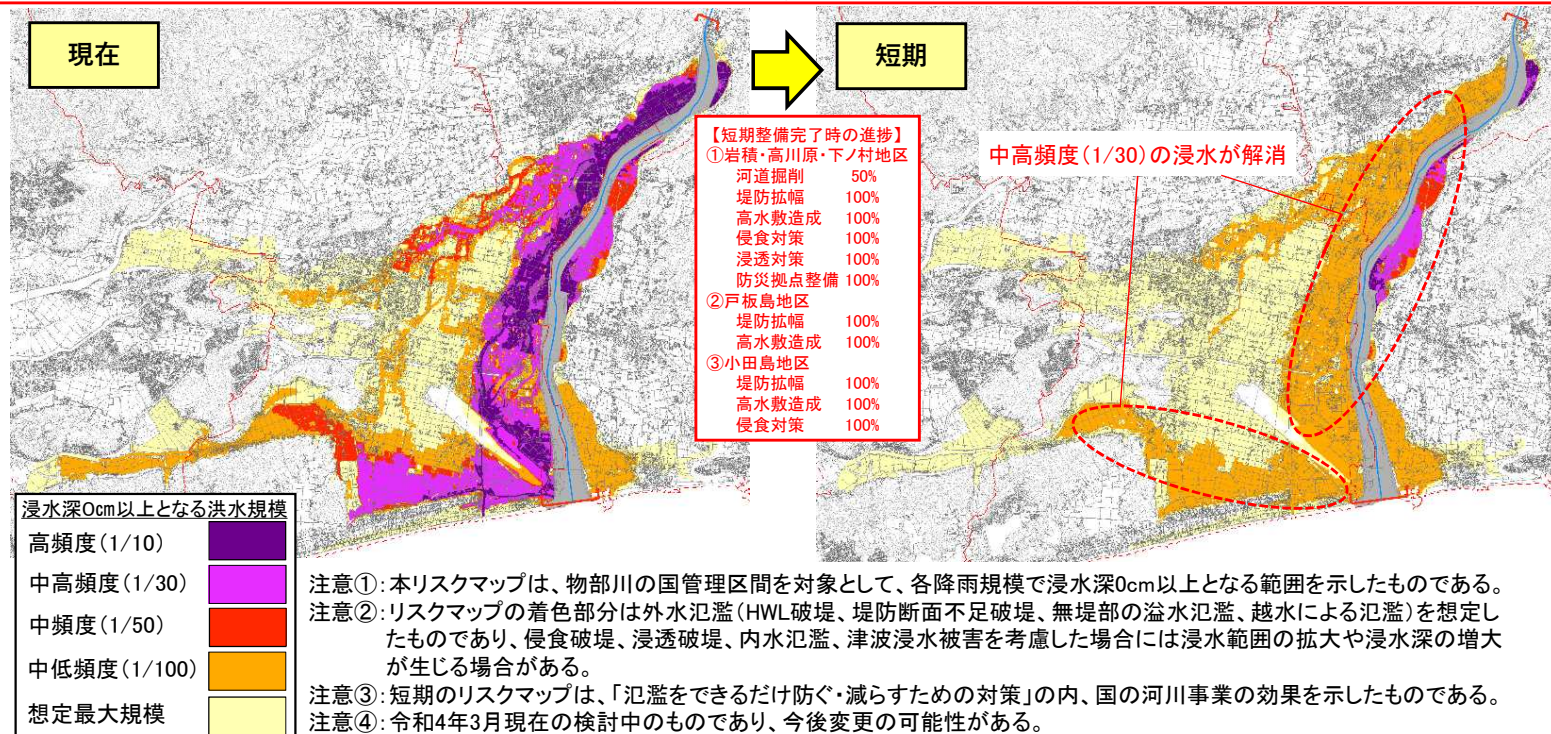
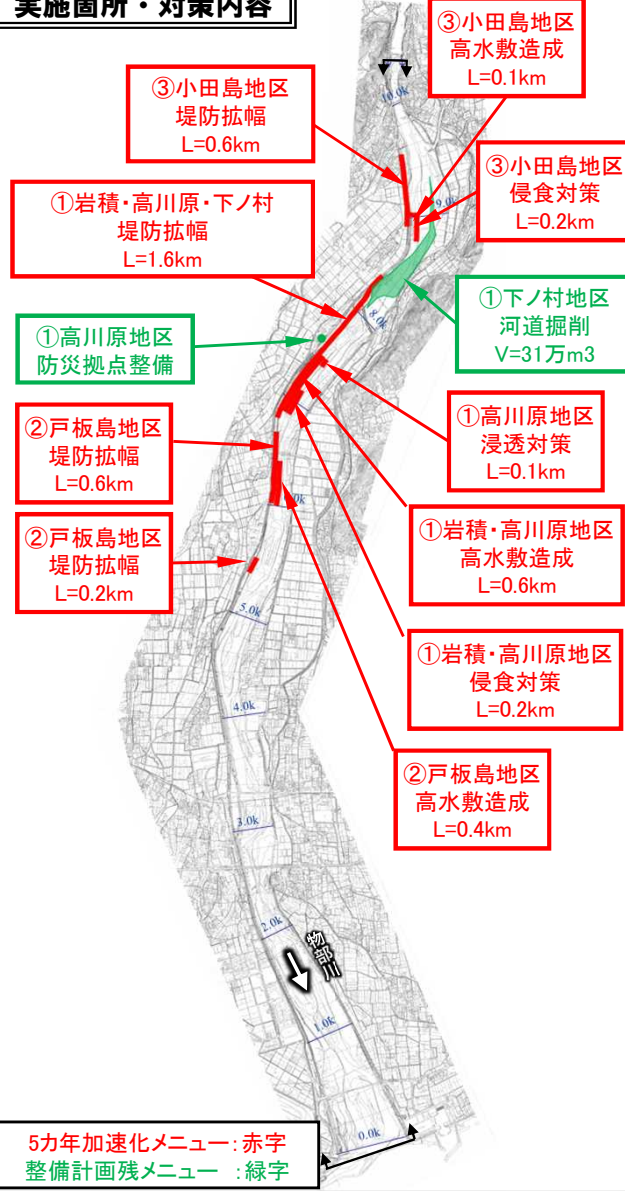
～南国土佐の「ものづくり・物流拠点」と暮らしを守る流域治水対策～

短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率※1 約78%→約86%

※1 河川整備率とは、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことができる国管理区間の割合。

○物部川においては、戸板島地区等の堤防拡幅事業がR7までの完了に伴い、戦後第2位の昭和47年7月豪雨規模の洪水でも同地区でHWL以下で安全に流下させることが可能。

実施箇所・対策内容



区分	対策内容	区間	工程		
			R3 【5か年加速化対策】 短期(R3～R7) 1/13 → 1/40	中期(R8～R12) 1/40 → 1/50	長期(R13) 1/50
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削 0% → 100%	①下ノ村地区	0% → 50%	100%	
	堤防拡幅 0% → 100%	②戸板島地区			
		①岩積・高川原・下ノ村地区			
		③小田島地区			
	高水敷造成 0% → 100%	②戸板島地区			
		①岩積・高川原地区			
		③小田島地区			
	侵食対策 0% → 100%	①岩積・高川原地区			
		③小田島地区			
	浸透対策 0% → 100%	①高川原地区			
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	防災拠点整備 0% → 100%	①高川原地区		0% → 100%	

注意①：スケジュールは現在実施している「5か年加速化対策」の予算が今後も同様に継続された場合を想定している。

注意②：今後の予算・事業進捗状況によって当表の内容は変更となる場合がある。

注意③：気候変動を踏まえた更なる対策を推進していくことも検討中である。

物部川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～南国土佐の「ものづくり・物流拠点」と暮らしを守る流域治水対策～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：86%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



3市

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 6箇所
（令和4年度実施分）

砂防関連施設の
整備数 0施設
（令和4年度完成分）
※施工中 1施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 1河川

（令和4年9月末時点）
※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定
区域 0団体

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水 862施設
避難確保
計画 土砂 196施設
（令和4年9月末時点）

個別避難計画 4市
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

堤防拡幅の実施

対策前



施工状況(R4.3月末時点)



小田島地区堤防拡幅

集水域で活動している団体との意見交換



「物部川21世紀の森と水の会」
との意見交換



物部川漁協組合長との勉強会

多様な主体が参画した物部川濁水対策検討会において、治水・利水・濁水対策・総合土砂管理の方針をとりまとめ

被害対象を減少させるための対策

居住誘導区域の見直し

高知市では、**家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流・河岸侵食）**について、**人的被害に直結する可能性が高いことから、災害レッドゾーンと同等と判断し、既に設定されている居住誘導区域から除外した。**（物部川と氾濫域が重複する国分川での取組）

家屋倒壊等氾濫想定区域
（氾濫流）

家屋倒壊等氾濫想定区域
（河岸侵食）



居住誘導区域
4,494ha



被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

「洪水の危険度に関する長時間先の見通し」の 情報提供（令和3年度出水期より開始）

	氾濫危険水位（無堤）4.25mを超過したのは		（参考） 最高水位
	流域平均雨量（12時間 累積）が次に達した後	永瀬ダム放流量が 次に達した1時間後	
S45.8	323mm	1,709m³/s	4.31m
S47.7	295mm	1,552m³/s	4.70m
H30.7	291mm	1,985m³/s	4.52m

- 概ね300mmを目安に沿川自治体・高知地方気象台とWeb会議を開催し、事務所から情報提供
- 半日以上からの「洪水の危険度」を共有することで、流域自治体の体制確保や住民への早期の情報提供が可能



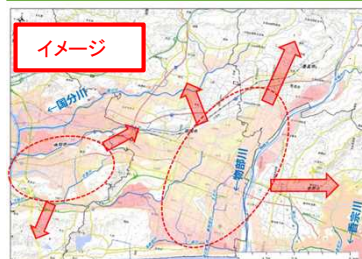
Web会議の様子

情報共有内容の例

雨の降り方によっては予想より早く、水位が上昇することがあります。早めの避難の呼びかけなどをお願いします。

令和3年8月より運用を開始し、物部川においては、実際にWeb会議を4回実施

流域全体での広域的な避難の検討



＜概要＞

- ・地区毎の避難者数と避難所の収容人数を算出し、近隣地区等への避難の可能性について検討する
- ・避難に関する地区毎の特性や課題を種出する